

家路

家に近づけばいつも夕日

今日もやっぱり坂道を
何とはなしにではあるけれど
やっぱり黄色い、けれども透きとおった光を
まともに顔で受け止めながら
仕方なく上ってゆくのです

家に近づけばいつも夕日

あの日もやっぱり坂道を、飛びはね飛びはね
やっぱり黄色い、けれども沁みるような光を
ちっとも気にはかけないで
その代わり、長あい長あい影法師を
飽きずに眺めていたもんでした

家に近づけばいつも夕日

昔、背を向け
今、顔を向け
一体それがどうだと言うのだ

家に近づけばいつも夕日

今日も無言のあの顔に
不安を募らせ角を曲がる

(1982.2.23)